## 第2学年英語科学習指導案

日 時 平成3年10月7日(月)

学 級 2年○組(男子15名、女子14名、合計29名)

指導者 北上北中学校 教諭 高 橋 明 浩

1、単元名 Lesson 6 What Do You Want to Be?

#### 2、単元設定の理由

言語材料面では、1学年でwhenを疑問詞『いつ』として、また、レッスン5でto不定詞を学習し始めている。これらを受けて、本単元ではwhenの接続詞『一のとき』としての用法と、不定詞の一つの形であるhave to『一しなければならない』を学習する。現在、2年生はいろいろな文法事項が次々と顔を見せる時期であり、混乱し始めている生徒も見られるが、英語に対する意欲を盛り上げるためには、英語本来のおもしろさに加えて「使える」英語を教えるように心掛けていくことが必要であると考える。そこで、できるだけ文法用語を使わず、「こういうときにはこう言う」という教え方をしていきたい。

次に言語活動面では、マイクと両親、マイクとキャスィの会話を通して、小さい頃なりたかった職業、今希望する職業、さらに今その基礎作りをする大切な時期であることを上記の言語 材料を用いながら生徒に実際に考えさせていきたい。

#### 3、生徒の実態

よく落ち着いていて、話もよく聞き、授業はやりやすい。ただ、生徒全体の傾向としてあいさつや質問に対する答えの声が小さく、分かっていても発言しない生徒も多い。そこで、1回発言するごとに1点ずつあげるという『発言点』を取り入れたところ、やる気を出した生徒が増えている。

しかし、その一方で、下位の生徒はほとんど学習意欲を示さない。そこで、授業では会話の 場面を多く用い、パタンプラクティスなどではどんな生徒でもできる・答えられる課題を用意 し、なるべく多くの生徒に当てるよう心がけることが不可欠となっている。

### 4、単元の目標

- 言語材料面
  - (1) 接続詞 when を用いた文の語順と意味について理解することができる。
  - (2) 「必要」を表す have to, has to を使った文を理解し、肯定文、疑問文、否定文を言ったり書いたりすることができる。
  - (3) as as の意味を理解することができる。
  - (4) Why ~ ?という文に対し、To ~. と答えることを理解できる。

#### • 言語活動面

- (1) マイクと両親の会話を通して、マイクの両親が小さいころなりたかった職業について理解できる。
- (2) マイクと父の会話を通して、マイクの将来の職業について理解できる。
- (3) マイクとキャスィの会話を通して宇宙旅行について、またキャスィのちゃっかりした発言について理解できる。

### 5、指導計画(8時間)

Part 1: 2時間

Part 2: 2時間 (本時1/2)

Part 3: 2時間

単元テストと解答:2時間

#### 6、本時の指導

- (1) 題材 「必要」を表すhave (has) to
- (2) 本時の目標(下位行動目標)
  - ① have to, has to を使って、いろいろな種類の「必要」が言える。
  - ② have to, has to を使ったたくさんの例文をグループで話し合って探すことができる。
  - ③ have to, has to の人称による使い分けができる。
  - ④ have to, has to の発音ができる。
  - ⑤ have to, has to が助動詞のように主語と動詞の間に入ることが分かる。
  - ⑥ have to, has toが「~しなければならない」という意味を表すことが分かる。

#### (3) 指導の構想

本時では、細かく段階を踏んで have to, has to を学ばせていくが、英語を学ぶときに自然な聞く→話す→読むという順序で進める。have to, has to そのものはあまり難解ではないので、文法の説明をなるべく少なくし、生徒をグループに分け、グループ毎に競争させながらなるべくたくさんの例文を出させることを主眼としたい。また、グループの中でも全然活動しない生徒がいないような工夫をしていきたい。

# (4) 本時の展開・・・(留意点には、生徒指導の機能を具体的に書く)

段階	学習内容	学 習 活 動	時 間	指導上の留意点
導入	1、あいさつ 2、p.37の読み練習	・単語→意味毎→文の順に先生の後 について読む。	8	<ul><li>・大きな声で挨拶する</li><li>・個々の単語の発音とリエ ゾンに注意</li></ul>
	3、学習課題の把握	<ul><li>・テープの後について読む。</li><li>・先生の言う英語を聞いて、何を言っているか予想する。(⑥)</li></ul>	5	・場面を大事にする
展	4、文法事項の説明	<ul> <li>can を思い出し、have to の文の中での位置を確認する。(⑤)</li> <li>have to, has to の発音に気づく。(④)</li> <li>have to, has to の人称による使い分けを確認する。(③)</li> </ul>	10	<ul><li>・板書で視覚的に理解させる。</li><li>・実際に発音させる</li><li>・1 学年での知識を利用する</li></ul>
開	5、パタンプラクテ ィス	・いろいろな場面、目的によって have to, has to を使って数個の英 文を言ってみる。	5	・挙手なしで自由に発言させる
( <del>  </del>	6、例文さがし競争	・班ごとにグループを作り、have to, has to を使ったなるべく多くの例文を作り、プリントに列挙する。(②)	10	・使う場面も考えさせる ・下位の生徒を励ます ・班員で協力して作業させ る (連帯感)
	7、さがした例文の発 表	・各班からできた例文を全て発表する。	10	・生徒の実名が入った例文 を入れる (所属感)
終結	<ul><li>8、まとめ</li><li>9、あいさつ</li></ul>	・have to, has to の使い方を確認する。	2	・元気よくあいさつ

## (5) 評価の観点とその方法

- ・have to, has to について、文の中での位置、発音、意味が理解できたか。
- ・have to, has toの機能的運用ができたか。(発表で確認)
- ・意欲的に授業や班活動に参加できたか。(机間巡視で確認)

# 学 習 シ ー ト 2年 組 班

[have to 動詞の原形] (一しなければならない)を使って、『こんな場面ではこんなことをしなきゃいけない』という英文をできるだけ多く作りなさい。

(例)(テストが近いな・・・) I have to study hard.

- 1, (
- 2, (
- 3, (
- 4, (
- 5、(
- 6, (
- 7, (
- 8, (
- 9, (
- 10, (
- 11, (
- 12, (
- 13, (
- 14, (
- 15, (
- 16, (
- 17, (
- 18, (
- 19, (
- 20, (
- 21, (
- 22, (
- 23, (
- 24, (
- 25, (
- 26, (
- 27, (
- 28, (
- 29、(
- 30, (

《参考:今までに習った動詞》

close:閉める

come:来る

c r y: 叫ぶ、泣く

dance:踊る

dig:掘る

d o:する

draw:絵をかく

drink:飲む

drop:落とす

e a t:食べる

enjoy:楽しむ

f in i sh:終える

get up:起きる

get to:〜〜着く

go to:〜へ行く

have:持っている、飼っている

help:助ける

hold:保持する

jump:飛び上がる

know:知っている

leave for: ~へ向け出発する

like:好む

listen to: 一を聞く

live:住む

look at: 一を見る

make:作る

open:開ける

play:(スポーツ·楽器を) する

practice:練習する

read:読む

run:走る

say:言う

see:見る、会う

s i n g : 歌う

sit down:座る

sleep:眠る

speak:話す

stand up:立ち上がる

s t a y:滞在する

s top:止まる、やめる

s t u d y:勉強する

take:手に取る

talk:おしゃべりをする

teach: 教える

thank:感謝する

think:考える

travel:進む、旅行する

use:使う

visit:訪れる

walk:歩く

want:ほしがる

wash:洗う

watch:見る

whisper:ささやく

w o r k : 働く

write:書く